

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年3月1日

事業所名 きらり倉敷

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		各活動に合わせエリア分けしており、自由遊び空間では、年齢によって提供する遊びも変えている。	
	2 職員の配置数は適切である	○			職員保有資格に偏りがある。専門職の評価を入れながら支援提供に努めたい。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		正規職員が中心ではあるが、全職員で業務改善を図っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		第三者評価等外部機関の評価も受審し、改善に努めている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人HPやWAMNETにて公表している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者評価を受審し改善に努めている。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所・拠点・役職等複数の研修に参加している。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的なアセスメントを実施し、保護者・利用児のニーズも踏まえて、支援計画の作成を行っている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		簡易発達検査、アセスメントツールを使用して評価している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			ねらいに対しての課題数が少なく、固定化してしまうことがある。ねらいから逸れることなく、課題数を増やしていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		社会経験を積む為の活動を定期的に実施している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			

17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			家族・地域支援においての項目が少ないため、広い視点でアセスメント→作成→支援が必要である。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校の年間行事予定を確認させてもらい、開所日等決めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		全ケースではないが、必要時に連絡を取りあっている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		状況表や移行会議にて移行時の情報共有を図っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		法人内の事業所と常に情報共有を図ったり、ケースに対しての助言をもらっている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		外出や法人内の公益活動にて、障害のない子と関わる機会はあるが、計画的な取り組みはできていない。今後検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	会議には出席していない。話し合いの内容は参加者に確認し把握している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時・懇談にて保護者と話す機会はあるが、保護者が子どもの姿を直接的に見て、課題共有することは少ない。親子の活動を増やし、共通理解を図る機会を設ける。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			主に幼児向けで実施している。対象者の拡大を検討していく必要がある。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		法人内では、女子会・おやじの会が発足し動いている。しかし事業所単位での保護者家族同士の集まる機会はない為開催を検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域に住む方との関わりが薄い。今後顔の見える関係を作り、地域の方と一緒に住みやすい街にしていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時対応マニュアルに加えBCPの作成も行っている。マニュアルはファイルに綴じ保護者も確認できるよう設置している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		事業所単位での訓練だけでなく、法人一斉の避難訓練も実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年1回以上の研修実施。職員の関わり等目標行動を決め実践し委員会に報告している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		法人全体で把握すべき事故事例を共有している。改善策の検討も法人単位で行っている。	